

139. 紙本墨画 俵屋宗達筆《狗子図》保存修復事業

神奈川県立近代美術館 館長 長門 佐季

<修復前>



狗子図

俵屋宗達筆《狗子図》

98.5 × 43.9cm

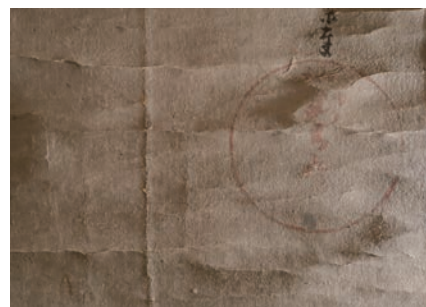
神奈川県



折れ、亀裂、捲れ



旧補紙



折れ伏せによる押し出し

解説

作者の俵屋宗達（生没年不詳）は江戸時代初期に活躍した画家。画面右下に「法橋宗達」の署名および「対青軒」の印章があり、制作時期は、宗達が法橋の称号を得たと推測されている1614年から、俵屋宗雪が工房を継いだ1642年までの間と考えられる。本作は、日本画家木下翔近（1926 - 1998）旧蔵の美術作品の一つで、2005年にご遺族から当館へ寄贈された。卓越した筆遣いと垂らし込みによる階調が、子犬の肌触りや温もり、息遣いまでを伝える優品である。受贈当初から、多数の横折れ、本紙表面の浮き上がりなどの損傷が見られたが、修復後は、国内外の美術館での展示が可能になり、日本美術史研究の発展に寄与することが期待される。

<修復後>



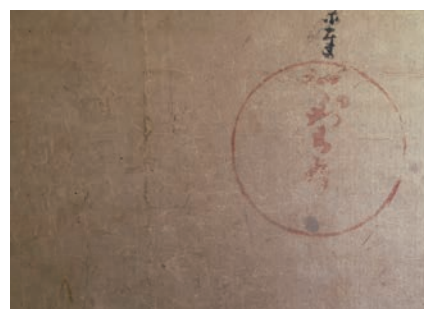
狗子図



折れ、亀裂、捲れ



旧補紙



折れ伏せによる押し出し

修復業者

株式会社 半田九清堂

修復内容

損傷個所を補強し、今後の損傷の進行を抑えるため、古い裏打紙を取り外す解体修理を行った。ドライクリーニングとウェットクリーニングにより、無理のない範囲で本紙の汚れを除去した後、膠水溶液で墨の剥落を止めた。本紙の欠損部から色味の異なる補紙を取り除き、新しい補紙を施して色合わせの補彩をした。新たに肌裏打ちを行い、横折れには折れ伏せをした上で、さらに裏打ちして掛軸装に仕立て直した。表装の裂地は修復前のものを再使用した。修復前の調査により、犬の後足部分に補紙、補筆があることがわかったが、本紙に非常によく似た紙が使われており、オリジナルの筆致とよく馴染んでいることから、そのまま残すことにした。

修理報告書

「狗子図」俵屋宗達筆

掛幅装 一幅

神奈川県立近代美術館所蔵

令和 7 年度

令和 8 年 3 月 記

株式会社 半田九清堂

代表取締役 半田昌規

東京都渋谷区上原1-29-12

I. 文化財の概要

作品名 狗子図 俵屋宗達筆
形態 掛幅装
品質 紙本墨画
員数 一幅

II. 所蔵

神奈川県立近代美術館
神奈川県三浦郡葉山町一色 2 2 0 8 - 1

III. 修理施工

株式会社 半田九清堂
東京都渋谷区上原 1 丁目 2 9 番 1 2 号

IV. 施工場所

東京都渋谷区上原 1 丁目 2 9 番 1 2 号
半田九清堂 本社上原工房

V. 工期

令和 7 年 4 月 2 2 日 自
令和 8 年 3 月 1 0 日 至

VI. 修理前状況

(本紙)

- ・横折れ、亀裂、浮き、捲れが見られた。
- ・欠損が見られ、欠損部には補紙や補筆が施されていた。
- ・縦方向の折れ伏せにより本紙が押し出されて、表面に擦れが生じていた。

(表具)

- ・掛軸全体に波打ちが生じていた。
- ・各表装裂は一枚の裂ではなく、それぞれ継ぎ合わせた裂が使用されていた。
- ・総裏紙に浮きが生じていた。

VII. 修理前後状況（寸法および形態、使用部材等）

	＜修理前＞	＜修理後＞	
表具形式	大和三段表具		
寸法：本紙	縦 98.3cm 横43.9cm	縦 98.5cm 横43.9cm	
：表具	縦180.1cm 横53.9cm	縦180.2cm 横53.9cm	
軸径、軸出	2.4cm、2.3cm	2.4cm、2.3cm	
表装：一文字	白茶地小花折枝紋金襴	再使用	
：風 帯	同上	同上	※風帯裏：茶地無地裂（新調）
：中廻し	藍地牡丹七宝紋緞子	再使用	
：上 下	茶地亀甲紋緞子	再使用	
上巻絹	薄浅葱地平織絹	薄萌黄地平織絹	
軸棒	杉材	杉材	
発装	杉材	杉材	
軸首	牙切軸	黒漆塗り切軸	
座金	黒花菱型	黒花菱型	
紐	啄木	啄木	
収納	桐材太巻芯 桐材印籠箱（蓋覆い付） 中性紙布貼り帙 羽二重包裂	再使用 再使用 再使用 再使用	
裏打紙			
：肌裏紙	楮紙／染め A	米粉入り楮紙 ／矢車・茜染め*	高知県 井上稔夫製 E
：増裏紙 1回目	楮紙 B	美栖紙	奈良県 上窪良二製 F
2回目		美栖紙	奈良県 上窪良二製 G
：中裏紙	—	美栖紙	奈良県 上窪良二製 H
：総裏紙	楮紙 C	宇陀紙／植物染め	奈良県 福西正行製 I
欠損部補修紙	あり	竹紙／矢車染め*	古紙 J
折れ伏せ紙	あり 2種 D	薄美濃紙	山形県 長谷川聡製 K

*染め加工：半田九清堂

※別紙、添付資料 A～K

VIII. 修理方針

本紙に強い折れが多数あり、経年による糊の接着力の低下による裏打ちの浮きなども見られる。これらは、更に損傷を進行させる原因となり、折れ、亀裂、剥離、剥落が進む危険が高い。

本修理では、損傷箇所の保護と補強、今後の損傷の進行を抑えるため、旧肌裏紙の打ち替えを伴う解体修理及び柔軟で丈夫な構造の掛軸装の仕立てを行う。経年劣化により本紙と共に折れている肌裏紙を除去し、新規に肌裏打ちをして本紙を安定させ保護し、折れ伏せを適切に行い、今後の折れを予防する。本紙の汚れは本紙を酸化させ劣化させる原因となるため、無理のない範囲で除去する。また、経年により膠の接着力が低下し、墨の定着が弱くなっている可能性があるため、膠水溶液による剥落止めを行う。現在の表装裂地は再使用し、軸首は新調する。既存の太巻芯（令和5年度新調）を取り付け、収納箱（令和5年度新調）に収納する。

IX. 修理内容詳細

1. 修理前の記録、調査

- ・寸法や損傷状態などの修理前状況を記録し、本体の状態についてデジタルカメラ（全体、部分）、赤外線撮影を用いて、詳細な撮影記録を行った。
- ・パッチテストを行い、墨の定着具合や汚れの移り具合を調べ、修理の作業順序や方法を検討した。

2. 解体

- ・表装から軸棒と発装を取り外した。
- ・本紙を表装裂地から取り外し、掛幅装を解体した。

3. 汚れ除去①（ドライクリーニング）

- ・本紙表面の汚れを柔らかい毛の刷毛で払い取った。

4. 旧総裏紙の除去

- ・本紙裏面より室温の濾過水を刷毛で軽く湿りを与えて、旧総裏紙を除去した。
- ・除去後は、毛氈を乗せてプレス乾燥し、本紙の折れを緩和した。
- *修理作業には全体を通して糸巻きタイプフィルター及び、粒状活性炭カートリッジフィルターで溶解ガスや有機物を吸着して、鉄分、塩素などを濾過除去した濾過水を用いた。

5. 汚れ除去②（ウェットクリーニング）

- ・本紙表面より室温の濾過水を噴霧し、本紙の下に敷いた吸い取り紙に汚れを吸い取り紙に移し取った。作業を繰り返し行った後、毛氈を乗せてプレス乾燥した。

6. 剥落止め①

- ・墨部分に牛膠水溶液を筆で塗布し、剥落止めを行った。作業は繰り返し行った。
- *剥落止めは、膠の種類や濃度、作業方法を十分検討した上で選択し、調整して行い、定着が見られるまで各工程において繰り返し施した。また、十分に乾燥期間をおいた。

7. 旧増裏紙、旧肌裏紙の除去

- ・本紙裏面より室温の濾過水を刷毛で湿りを与え、旧増裏紙、旧肌裏紙を除去した。

8. 旧補紙の除去

- ・本紙裏面より室温の濾過水を筆で湿りを与え、旧補紙を除去した。

9. 新規補紙

- ・本紙欠損部裏面から新糊を用い、欠損の形状に切り抜いた竹紙で補填した。
- ・新規補修紙は、天然染料の矢車で染色して用いた。

10. 新規肌裏打ち

- ・新糊を用い、米粉入り楮紙で新規に肌裏打ちをした。
- ・新規肌裏紙は、修理前の作品の印象を変えないよう、旧肌裏紙と近い色調に天然染料の矢車と茜で染色した。

11. 新規増裏打ち（1回目）

- ・古糊を用い、美栖紙で1回目の新規に増裏打ちをした。

12. 新規折れ伏せ

- ・今後の折れが心配される箇所の裏面から、細く裁断した薄美濃紙の帯を新糊で貼り当て、折れ伏せを行った。

13. 表装裂地の再使用、新規裏打ち

- ・表装裂地は再使用する為、経年の汚れと旧裏打紙を除去した。
- ・風帯裏の裂は、上下の裂と同裂が用いられるが、薄茶地無地裂が用いられていたため、上下の裂と同系色の茶地無地裂にて新調した。
- ・再使用と新調の表装裂地に、新糊を用いて薄美濃紙で新規肌裏打ちを、古糊を用いて美栖紙で新規増裏打ちをした。
- ・風帯を縫製した。

14. 新規増裏打ち（2回目）

- ・古糊を用い、美栖紙で2回目の新規に増裏打ちをした。

15. 切り継ぎ

- ・表装裂地と本紙を断ち合わせ、新糊を用いて切り継いだ。

16. 新規中裏打ち

- ・古糊を用い、美栖紙で新規に中裏打ちをした。

17. 新規総裏打ち

- ・ 古糊を用い上巻絹と宇陀紙で総裏打ちをした。
- ・ 数回の返し張りを行い、十分乾燥させた。

18. 補彩

- ・ 新規補紙箇所に地色合わせの補彩を施した。
- ・ 補彩は、所有者と確認の上で完了とした。

19. 仕上げ

- ・ 新調した軸棒に新調の軸首（黒漆塗切軸）を挿げ、取り付けた。
- ・ 新調の発装、金具、紐を取り付け仕上げた。

20. 収納

- ・ 再使用の羽二重包裂に掛軸を包み、再使用の桐箱、中性紙布貼り帙に収納した。

21. 修理後の記録および撮影、報告書の作成

- ・ 修理後の写真撮影および記録をし、記録調書や写真を整理して報告書を作成した。

X. 特記事項

- ・ 本紙の欠損部分には補紙が施され、補筆や補彩が施されていた。所有者と協議の上、補筆のある補紙は残し、補彩が周囲と馴染んでいない補紙は除去した。

XI. 修理前後比較写真

写真1 全体（斜光線撮影）

修理前



修理後



写真2 本紙（斜光線撮影）

修理前



修理後

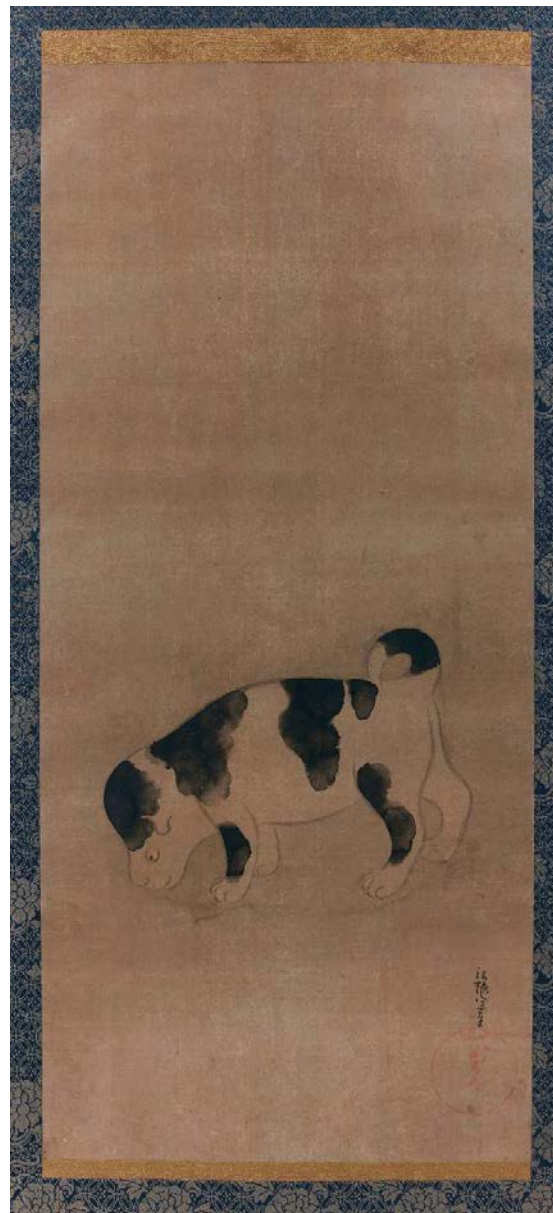
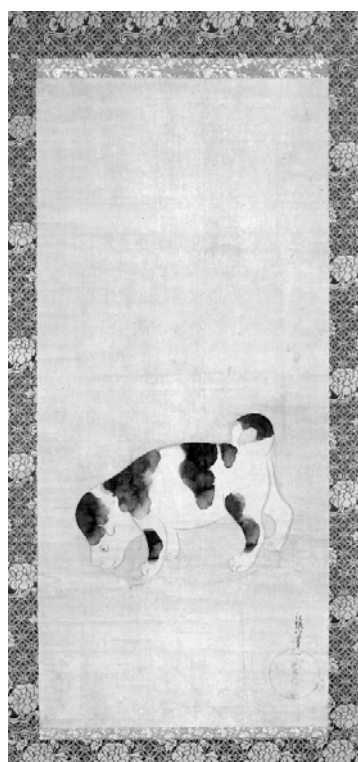


写真3 各種撮影比較

可視光線撮影（カラー写真）



可視光線撮影（モノクロ写真）



反射赤外線撮影（モノクロ写真）

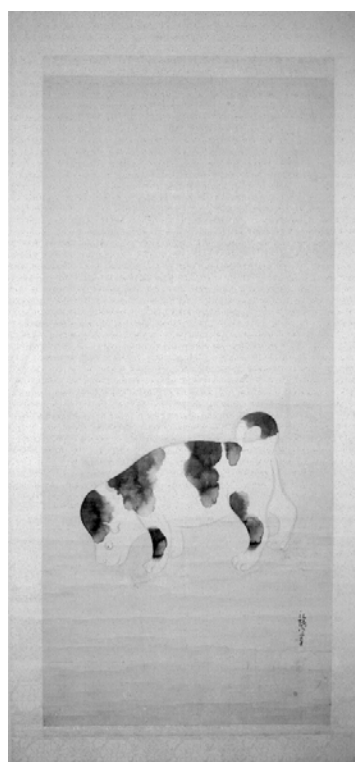


写真4 折れ、亀裂、捲れ

修理前：

- ・本紙に折れ、亀裂、捲れが見られた。



修理後：

- ・新規裏打ちと折れ伏せ、仕立て直しにより解消した。



写真5 本紙の押し出し

修理前：

- ・縦方向の折れ伏せにより本紙が押し出されて、表面に擦れが生じていた。



修理後：

- ・折れ伏せ紙を除去し、新規裏打ちにより本紙の押し出しを解消した。

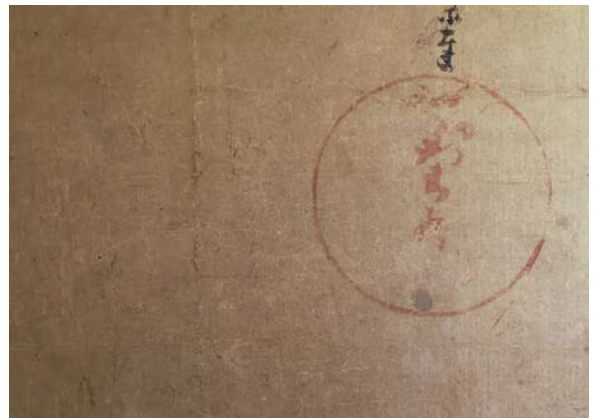


写真6 補紙①

修理前：

- ・ 本紙に欠損が見られた。
- ・ 欠損部に補紙や補筆が施されていた。



修理後：

- ・ 黒ずみのある補紙を除去し、本紙欠損部裏面から新糊を用い、欠損の形状に切り抜いた竹紙で補填した。
- ・ 新規補紙箇所に、地色合わせの補彩を施した。



写真7 補紙②

修理前：

- ・ 本紙に折れや欠損が見られた。
- ・ 欠損部に補紙や補筆が施されていた。



修理後：

- ・ 所有者と協議し、補筆のある補紙は残すこととした。
- ・ 黒ずみのある補紙を除去し、本紙欠損部裏面から新糊を用い、欠損の形状に切り抜いた竹紙で補填した。
- ・ 新規補紙箇所に、地色合わせの補彩を施した。



写真8 上巻絹、総裏紙の浮き

修理前：

- ・上巻絹や総裏紙に浮きが生じていた。



修理後：

- ・新規総裏打ちにより、浮きを解消した。

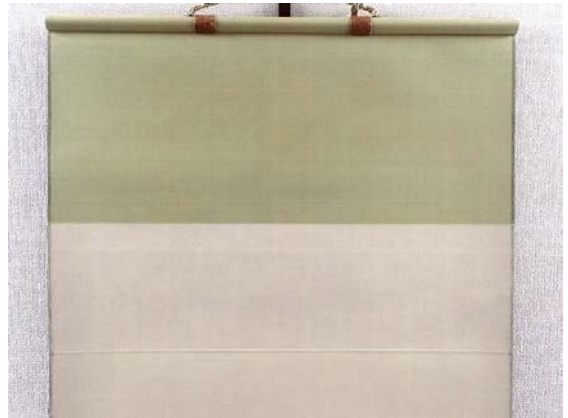


写真9 軸首

修理前：



修理後：

- ・黒漆塗り切軸に新調した。



XI. 添付資料

添付資料 *A*

旧肌裏紙

: 楮紙／染め



添付資料 *B*

旧増裏紙

: 楮紙



添付資料 *C*

旧総裏紙

: 楮紙



添付資料 *D*

旧折れ伏せ紙・2種

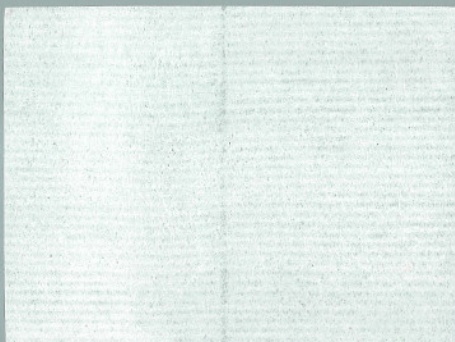




添付資料 **E**

新規肌裏紙

: 米粉入り楮紙/矢車・茜染め
高知県 井上稔夫製



添付資料 **F**

新規増裏紙・1回目

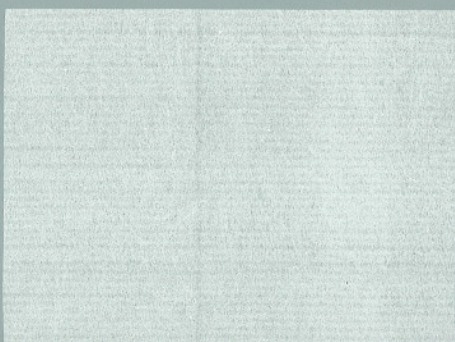
: 美栖紙
奈良県 上窪良二製



添付資料 **G**

新規増裏紙・2回目

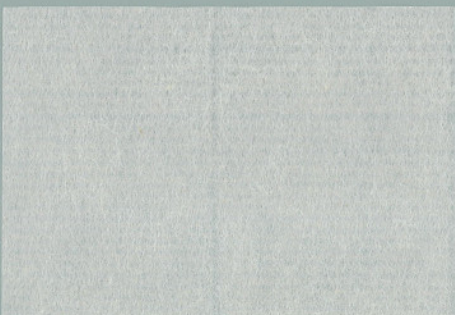
: 美栖紙
奈良県 上窪良二製



添付資料 **H**

新規中裏紙

: 美栖紙
奈良県 上窪良二製



添付資料 **I**

新規総裏紙

: 宇陀紙/植物染め
奈良県 福西正行製

添付資料 *J*
新規欠損部補修紙
:竹紙／矢車染め
古紙



添付資料 *K*
新規折れ伏せ紙
:薄美濃紙
山形県 長谷川聡製



取り外した旧補修紙

